◇新刊紹介

日町岩開）で、早くも昭和一〇年代から日蓮研究に取り組み、『立正大学論叢』『日本歴史』『鷲峰』『法華』『若越郷土研究』に数々の実証的な論文等を発表してきた篤学の士で、本書において見事一本に体系づけたわけである。なお「龍口法難」についての論稿とその御難にかかわる日蓮の御真蹟（聖人御難事）および「法難の絵図」（口絵写真版）等を掲載したのは、かって明治期の歴史学界で「龍口法難」の実否問題が争われたが、その論争の決着すべき史実の史料的典拠を明示したわけである。このように本書にかけた著者のひたむきな学究心のほどには深い感銘をおぼえるところで、祖師伝研究には心積の書として高く評価したい。　（三上一夫記）

祖師傳研究　久保日参著　日本図書刊行会発行　昭和六十三年七月　A5判　二六五頁　定価三、五〇〇円

著者が祖師日連聖人に関する長年の研究成果を一本にまとめたものである。本書の構成は、前・後・附の三篇とし、まず前篇（祖伝小研究）は、日蓮の伝記に関する論稿で、後篇（祖伝書研究）には、「元祖略伝の研究」など日蓮の古来よりの伝記書に関する論説を収め、最後の附篇（祖書研究その他）では、日蓮の祖書（御遺文）に関する論稿を主としたものである。

著者は法華宗真門流大隆寺住職（丹生郡朝